

8

■2026年度 勤務医負担軽減計画及び2025年度取り組み状況

※A：達成済み B：一部達成/取り組み中 C：未着手・未実施

項目	目標	2026年度取り組み事項	2026年度状況	2025年度状況	2025年度取り組み事項
業務の役割分担	検査説明業務移管による業務軽減	事業継続に努める。他の説明動画やICT化を検討する		A	更なる業務・運用の最適化を図る。説明動画の導入実施。
	病棟における手厚い看護体制確保	引き続き、看護職員配置加算相当（10対1）の配置を堅持し、医師の業務負担に努める。		A	2023年度も引き続き、看護職員配置加算相当（10対1）の配置を堅持し、医師の業務負担軽減に継続して貢献する。
	薬剤師による病棟患者の持参薬を含めた処方管理及び服薬指導実施	診療報酬対象病棟の急性期病棟のみならず、非算定対象の地域包括ケア病棟へも専任薬剤師を引き続き配置し、医師及び看護師との連携を強化する。		B	診療報酬対象病棟の急性期病棟のみならず、非算定対象の地域包括ケア病棟へも専任薬剤師を引き続き配置し、医師及び看護師との連携を強化する。
	地域包括ケアシステム構築による病院役割の明確化・意識の徹底	ネットワークシステムの中核病院として、医療介護情報を有効活用する。		A	ネットワークシステムの中核病院として、医療介護情報を有効活用する。
	医師事務作業補助体制の充実	医師事務作業補助体制加算（20対1）を保持し、さらには増員を検討し医師業務軽減に努める。医師事務の業務について定期的に評価検討を行う。		A	医師事務作業補助体制加算（20対1）を保持し、さらには増員を検討し医師業務軽減に努める。
勤務体制等	夏季休暇取得推進	引き続き100%の休暇取得を奨励するとともに、休暇取得時における体制・対応についても病院組織としてのサポートにも努めていく。		A	引き続き100%の休暇取得を奨励するとともに、休暇取得時における体制・対応についても病院組織としてのサポートにも努めていく。
	夜間救急対応の負担軽減	更なる医師の増員予定により、宿・日直回数の軽減に努める。外科系医師については、オンコール日を設定し、宿日直回数の軽減に努める。		A	内科系医師の増員予定により、宿・日直回数の軽減に努める。外科系医師については、オンコール日を設定し、宿日直回数の軽減に努める。
	連続当直を行わない勤務体制の構築	2026年度も引き続き、連続当直を行わない勤務体制を堅持することに努めていく。		A	2025年度も引き続き、連続当直を行わない勤務体制を堅持することに努めていく。
	予定手術前の当直・夜勤に対する配慮	病院方針として予定手術前日の夜勤・当直に対しては、シフト作成の際に可能な限り考慮・配慮し、医師の負担軽減のみならず医療安全にも最大限配慮することに努める。		A	病院方針として予定手術前日の夜勤・当直に対しては、シフト作成の際に可能な限り考慮・配慮し、医師の負担軽減のみならず医療安全にも最大限配慮することに努める。
	医師確保による負担軽減	新たに増員となった医師体制の維持を図りつつ、各医師がより充実した環境で業務に専念出来るよう病院全体で支援を行う。また、引き続き必要な医師（診療科）については確保の活動を継続していく。内科医師の増員予定。		A	新たに増員となった医師体制の維持を図りつつ、各医師がより充実した環境で業務に専念出来るよう病院全体で支援を行う。また、引き続き必要な医師（診療科）については確保の活動を継続していく。（総合診療科、婦人科、呼吸器内科、消化器内科増員予定）
	短時間正規雇用の医師の活用	他病院の先進事例等を参考に、短時間正規雇用の医師確保に向けた制度構築を図っていく点に対応していく。		C	他病院の先進事例等を参考に、短時間正規雇用の医師確保に向けた制度構築を図っていく点に対応していく。
	院内保育所の充実	事業継続に努める		A	事業継続に努める